

令和5年 3月15日 (水)

# あさひの日だまり

NO.39

辰野町立辰野東小学校 文責 片桐

～1年間ありがとうございました～

御礼申し上げます

昔、宿題をためて、もうどうにもならない気持ちになっているあの時を思い出しています。週末には必ず出そうと決めていたお便りをしばらく出せていません。最後に来て反省です。修業式の今日と卒業式を迎える明日、お便りを書きたいと思います。しばらくお休みしてしまったお詫びと、時間の許す範囲で結構ですのでこれからもお読みいただければ幸いですという御礼の思いも込めて書かせていただきます。

まずは何よりも、各ご家庭に置かれましては、陰に陽に学校のことをお支えいただきました。学校を代表して心より感謝申し上げます。

1年間を通して、各ご家庭が、学校の取り組みや日々の出来事に関して、本当に温かく見守って下さいました。

私も親として親の目で学校を見つめていた時期があります。「もっとこうしてくれた方が子どもの思いにかなっているのにな～」と思うことも度々でした。「もっと丁寧にやって欲しいな」と思うこともありました。

現在、校内から見えていても、私たちの対応やお願いに対して、保護者の皆様はいろいろな思いを抱えながら、ひとまず心の中に抑えておいてくださり、学校に任せていただいているに違いないと思う場面もありました。そういう保護者の皆様のお心遣いに支えていただきながら、言い方を変えれば甘えさせていただきながら今日までやってこられました。心より感謝とお詫び申し上げます。私たち教職員一同、目の前の子どもたちの姿、表情、言葉にできない思いをくみ取り、子どもたちの他の楽しい学校生活のために、今後も精一杯努めてまいります。変わらぬご支援よろしくお願いたします。

15日は修業式が行われました。子どもたちが、「やればできる！」という自信の芽を芽吹かせてくれたらと思い、こんなお話をさせていただきました。

終業式に皆さんに報告する約束がありました。

覚えていますか。

ジャン。約束はこれです。

そして、先生が作った竹トンボが、これです。

実物はこれです。(実物を見せました)

昔作った時に全然飛ばなかった悔しさをここで晴らそうと一生懸命頑張りました。丁寧に、丁寧に、時間をかけて作りました。今はインターネットで作り方を調べられます。何通りもの作り方が載っていました。その中でも結構難しい作り方に「挑戦」しました。飛ばなかったら悔しいので、書いてある通～りにそのまま作ってみたいと思いました。でもなかなか思うようにはいきませんでした。「最後の仕上げは、自分で調整しましょう」と書いてありました。でも、実際は最後の調整のところが一番難しいんですよね。だって、この竹トンボも、

だいたい出来上がった後に、どこをどう削って仕上げればもっと高く飛ぶのか、先生には全く見当が付きません。そこが一番知りたいのに、そこは自分で何とかしろというわけです。

先生は自分なりにいろいろ試してみました。

さあ、この竹トンボは飛ぶでしょうか。みなさんの前で、飛ばしてみたいと思います。「竹とんぼ、頑張って飛んでくれ！」(実際に飛ばしてみる)

先生は、正直に言うところ「どうせうまく飛ばないだろうな」って思っていたんです。昔みたいにさっぱりダメだと思っていたんです。

思い切って飛ばしてみたら、先生は本当に驚きました。びっくりしました。だって、想像していたよりもずっと勢いよく飛んでくれたからです。高く飛んでくれたからです。

約束

「竹トンボが上手くできるかどうか、結果をまた皆さんに報告します。」



不器用な自分でも、竹トンボが作れたんです。「やったー」と叫びたい気持ちになりました。  
先生の頑張りをスライドにしてみました。見て下さい。(スライドの説明)



色々試しているうちに2つのことが大切だということがわかりました。  
一つ目です。とにかく軽〜く、軽〜くするんです。小刀で削って、そのあとは紙やすりで磨いて、折れてしまうぎりぎりまで軽くしました。  
二つ目です。左のスライドです。何をしているところかわかりますか。  
羽の重さが、左右で同じになるように調節しているところです。重い方の羽をナイフで削るんです。そして、両方の羽が釣り合ったらOKです。これがなかなか難しいんです。何度も何度も試してみました。結局最後まで完全にはうまくいきませんでした。ほんの少しの重さの違いを直せませんでした。

だから、この竹トンボは本当はもっと飛ぶのかもしれませんが。それでも先生は自分のできる精一杯で頑張ったので、今回の「挑戦」に満足しています。自分でこんなすごい竹トンボを作れるなんて、とびっくりしているんです。「俺も結構やるじゃん」と思っているんです。それと、実は他にももう少し工夫できそうなところがあるんです。もしかすればもっと飛ぶのができるかもしれません。不器用で、何を作ってもうまくいかなかった先生の、春休みの挑戦です。みんなも自分では気が付いていない、絶対すごい力を持っています。何か「挑戦」すると、隠れているその力が初めて見えてきます。この休み、ぜひとも何か「挑戦」してください。  
失敗。大いに結構。成功へつながる道に失敗が待ち構えているのです。失敗はいつまでも続きません。  
みなさんの春休みが楽しい休みになることを願っています。  
先生のお話は終わりです。

### ～ 6年生が沢底で平和学習～

沢底には、戦時中の爆撃跡地があります。私も初めて知りました。その時の記録も詳細に残されています。爆撃を受けたのは、昭和20年2月10日ということですので、同年8月に終戦を迎える少し前の出来事です。被弾したのは、穴山地籍で、幸い人や家畜に被害はなかったようですが、人家からの距離はほんのわずかです。着弾跡まで案内していただきましたが、今でも大きな穴が残っており、当時の被害の大きさが想像できました。

穴に入ってその大きさを肌で感じている子どもたちの姿を傍らから見ながら、世界のどの場所も共通に、人が人に対してこのような行為を行われない時代が一刻も早く訪れることを願わずにはられませんでした。

### ～ 4年生の自主学習発表会～

発表会当日は朝から雨。週末に発表準備をしたのでしょう。大切に画用紙を抱えて登校する4年生の姿が目につきました。発表は1・2時間目でした。教室で発表の様子を聞かせていただきました。

「興味のあった〇〇について調べてみました」「自分一人で〇〇を作ってみようと思いました」という言葉が聞かれ、一人ひとりがみんな自分のやってみたいことについて、自分なりの方法で学んでいること。その学習の中で新しい気づきや、もっと深く調べてみたいことが出てきていることに感心しました。そして、友だちの発表に真剣に聞き入る姿がとても印象的でした。「自分も友だちも一生懸命学習したんだ」という思いの共有をその場の空気から感じました。